

2. 火山の概況

(平成 16 年 12 月 16 日 ~ 平成 16 年 12 月 22 日)

雌阿寒岳、十勝岳及び樽前山では、噴煙の状況に変化はなく、火口の高温状態が続いていたと推定される。

浅間山では火映がほぼ連日観測され、多量の火山ガスの放出が続いた。火山活動度レベル（以下レベルと記載）は3。

三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。

阿蘇山では熱的な活動のやや活発な状態が続いた。レベルは2。

霧島山では御鉢の噴気活動がやや活発であった。

諏訪之瀬島では、噴火活動が活発になり、爆発が発生した。

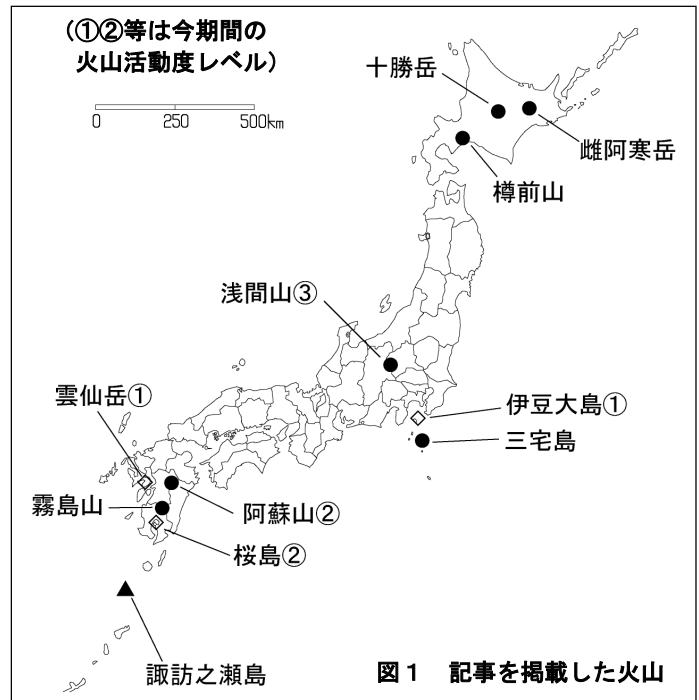


図1 記事を掲載した火山

表1 最近1か月に記事を掲載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島		雌阿寒岳	十勝岳	樽前山	草津白根山	三宅島	福徳岡ノ場	霧島山	諏訪之瀬島
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号								
52	12/16-12/22	③	●	①	◇	②	●	①	◇	②	◇	●	●	●		●		●	▲
51	12/9-12/15	③	▲	①	◇	②	●	①	◇	②	◇	●	●	●		▲		●	
50	12/2-12/8	③	●	①	◇	②	●	①	◇	②	◇	●	●	●	◆	▲		●	◆
49	11/25-12/1	③	●	①	◇	②	●	①	◇	②	◆	●	●	●	●	▲		◆	▲
48	11/18-11/24	③	▲	①	◆	②	●	①	◇	②	▲	●	●	●	●	●	●	●	▲

注1 記号の意味

- ▲: 噴火した火山
- : 活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化があった火山
- ◆: 前期間まで▲や●で掲載し、その後の状況等を掲載した火山
- ◇: その他記事を掲載した火山
- ①②等の丸付き数字: 火山活動度レベル

注2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

● 雌阿寒岳 [熱]

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

● 十勝岳 [噴煙・熱]

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、高温の状態が続いていたと推定される。遠望カメラによる噴煙の高さは火口縁上おおむね 200m で推移した。

● 樽前山 [熱]

A 火口およびB 噴気孔群の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

● 浅間山 [火山ガス・噴煙・火映・地震・微動] レベル3 (山頂火口で小~中噴火の可能性)

今期間、噴火は観測されなかった。

17 日に実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は 2,900~4,100 トンで、前回 (7 日 2,600~4,700 トン) と同程度であった。

22日に実施した上空からの観測¹⁾では、噴煙量が多く火口内の状況は確認できなかったが、火口周辺の状況に変化は見られなかった。

白色噴煙は山頂火口より連続して噴出しており、最高で火口縁上300mまで上がった。火映が16～19日及び21～22日に山麓の高感度カメラで観測された。

火山性地震は1日当たり46～75回観測された。火山性微動は20日に11回とやや多く観測されたが、その他の日は1日当たり0～2回で推移した。

1) 長野県消防防災ヘリコプターにより、産業技術総合研究所と気象庁が実施。

◇ 伊豆大島 レベル1 (静穏な火山活動)

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなかった。

● 三宅島 [噴煙・熱・火山ガス・地震]

白色噴煙は山頂火口より連続して噴出しており、最高で火口縁上1,000mまで上がった。

21日に上空から行った観測²⁾では、火口周辺及び火口内に11月末から12月上旬に発生した噴火の前後で特段の変化は見られず、赤外熱映像装置³⁾による観測では火口内の最高温度は198℃であった(前回(11月16日)は121℃)。火山ガスの観測では、二酸化硫黄の放出量は日量4,800トンで依然として多い状態であった。

火山性地震は1日当たり5～53回観測された。

2) 警視庁の協力による

3) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、大気その他の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

● 阿蘇山 [熱・噴湯現象・微動] レベル2 (やや活発な火山活動)

17日及び21日に阿蘇山測候所が行った現地観測によると、中岳第一火口の状況は、湯だまりの色は緑色(前期間は灰緑色)、量は約8割、表面温度の最高は70℃(前期間は68℃)で、火口壁の最高温度は127℃であった(前期間は133℃)。噴湯現象が湯だまりの中央付近、西及び南西側で観測された。

噴煙は白色で噴煙の高さの最高は火口縁上300m(前期間500m)であった。

孤立型微動の発生回数は492回であった(前期間は514回)。継続時間の短い火山性微動が1回発生した(前期間はなし)。

地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

◇ 雲仙岳 レベル1 (静穏な火山活動)

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

● 霧島山 [噴気]

御鉢火口の噴気活動はやや活発で、17日及び20～22日に時々噴気が監視カメラで観測され、高さの最高は火口縁上300mであった。

◇ 桜島 レベル2 (比較的静穏な噴火活動)

期間中、噴火はなかった(前期間もなし)。噴煙活動も低調で、鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)で降灰は観測されなかった(前期間もなし)。

▲ 諏訪之瀬島 [噴火・爆発・微動]

19～22日に噴火が発生し、22日には爆発的噴火(以下、爆発)が1回発生した。噴火の発生は12月1日以来、爆発の発生は10月23日以来である。

十島村役場諏訪之瀬島出張所(以下、出張所)によると、19日13時過ぎから21日07時頃まで火山灰を含む噴煙が上がっているのが確認された。20日には継続時間の短い火山性微動が日回数60回と多発した。

21日に入って微動の発生は少ない状態であったが、21日11時30分頃から再び断続的に発生するよ

うになり 13 時 30 分頃からは連続微動となって 21 時 30 分頃まで続いた。出張所によれば、21 日昼頃から 22 日にかけて火山灰を含む噴煙が上がっているのが確認され、21 日午後には高さ火口縁上 800m で南東に流れる灰白色の噴煙が確認された。

22 日 09 時 35 分に爆発が発生した。監視カメラでは、噴煙の状況は雲のため不明であった。微動の発生は、21 日の連続微動後も断続的に続いていたが、爆発の直後から再び連続となり、22 日 21 時頃までほぼ連続的に続いた。

期間中、集落（御岳の南南西約 4 km）で降灰はなかった。

表 2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第 178 号	16 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（噴火はなし、噴煙・火映・地震・微動・地殻変動の状況及び上空の風の予想）。レベルは 3。
	火山観測情報第 179 号	17 日 16:00	
	火山観測情報第 180 号	18 日 16:00	
	火山観測情報第 181 号	19 日 16:00	
	火山観測情報第 182 号	20 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（噴火はなし、噴煙・火映・地震・微動・地殻変動の状況、火山ガス観測結果及び上空の風の予想）。レベルは 3。
	火山観測情報第 183 号	21 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（噴火はなし、噴煙・火映・地震・微動・地殻変動の状況及び上空の風の予想）。レベルは 3。
	火山観測情報第 184 号	22 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（噴火はなし、噴煙・火映・地震・微動・地殻変動の状況、上空からの火口観測結果及び上空の風の予想）。レベルは 3。
三宅島	火山観測情報第 701 号 ↓（1 日 2 回発表）	16 日 09:30 ↓	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）。
	火山観測情報第 714 号	22 日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第 59 号	17 日 11:05	火山活動は引き続きやや活発（湯だまりの状況、噴湯現象あり、地震やや多い）。レベルは 2。
諏訪之瀬島	火山観測情報第 11 号	21 日 16:20	火山活動はやや活発（昼頃から火山性微動の発生、灰白色の噴煙を確認）。